

一口メモ

精神疾患はがんや脳卒中、心臓病、糖尿病とともに、厚生労働省が重点的な対策が必要とした「5大疾病」に位置付けられている。2008年の調査では、日本国内の精神疾患患者は323万人で、糖尿病(237万人)、がん(152万人)を大きく上回っている。

知りたい!
治療の最前線

統合失調症

◇32

約1,000人に1人が患うという精神疾患の統合失調症。思春期や青年期に生じやすい「こころの病」です。原因ははっきりと分かっていませんが、脳内の神経伝達物質の異常などによって、症状が生じると考えられています。診断や検査、治療方法について解説します。

早期受診 生活の質保つ

統合失調症で

みられやすい症状

<p>陽性症状</p> <ul style="list-style-type: none"> いない人の声が聞こえる(幻聴) 実際にはないことを強く確信する(妄想) 思考が混乱し、考え方に一貫性がなくなる 	<p>陰性症状</p> <ul style="list-style-type: none"> 喜怒哀楽が乏しくなる 頭が働かない 口数が減る 何もやる気がしない 引きこもり傾向
--	--

● 考えがまとまらない

● 集中できない
覚えられない

● 同時にいくつかのことをできない

認知機能障害

診断は幻聴や妄想などの症状に基づいて行いますが、脳炎やてんかん、内分泌疾患など他の疾患でもよく似た

経発達過程に起こる何らかの変化が脳機能の異常をもたらすと考えられています。発症メカニズムや原因は十分に解明されていません。

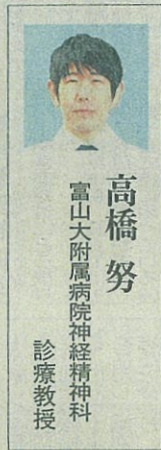
脳検査で鑑別診断

診断は幻聴や妄想などの症状に基づいて行いますが、脳炎やてんかん、内分泌疾患など他の疾患でもよく似た

多様な療法組み合わせ

統合失調症の患者さんは思考や行動、感情がまとまりにくくなり、幻聴や妄想などに加え、引きこもり傾向などを認めます(図1)。出生前の神経発達過程に起こる何らかの変化が脳機能の異常をもたらすと考えられています。発症メカニズムや原因は十分に解明されていません。

治療は薬物療法を中心に、症状の程度や回復に応じて精神療法や心理教育、リハビリテーションなど多様な療法を組み合わせで行います。また、高血圧や糖尿病など他の慢性疾患と同じように、長期にわた



高橋 努
富山大附属病院神経精神科
診療教授

たり治療を継続する必要があります。多くの病気と同様に、統合失調症も発症から適切な治療を開始するまでの期間が短いほど治療効果が高くなり、生活の質が良好に保たれることが報告されています。すなわち、早期に専門家の診察を受けて治療を始めることで、より多くの患者さんが自立した社会生活に復帰することが期待されます。

「こころのリスク相談」ホームページを開設しています。セルフチェックのページもありますので、自分の精神状態に不安を感じた方は試してみてください。

アドレスは、http://www.med.u-toyama.ac.jp/neuropsychiatry/index_kokoro.html

◆ 今回は17日に掲載します。

センターでは、心理士の専門スタッフが相談に応じます。相談は原則として本人と面談して行いますが、未成年者の場合は保護者も同伴してください。リスクが高いと考えられた場合は後日、富山大附属病院で詳しい検査を受けられます。

「こころのリスク相談」ホ

「こころのリスク相談事業」の流れ

